

# サクララ咲くソーラーパークへ



## 「未来エネルギー」が田尻で植樹

「おおさき未来エネルギー」(高橋勝行社長)は17日、大規模太陽光発電事業を進めている「みくらソーラーパーク」(同市田尻、加護坊温泉さくらの湯隣)の敷地内にサクラの苗木を植え、地域の美観向上を図った。

地域貢献策として企画した。「加護坊さくらの会」(遠藤日出男会長)を通じ、日本宝くじ協会から苗木の寄贈を受けた。

苗木は、カンザンやオオヤマザクラなど3種計50本。それぞれ開花期が異なり、花を長期間にわたって楽しめるという。

苗木を植えていく参加者たち

この日、参加した関係者10人余りは吹雪の中、スコップで穴を掘って高さ2メートル超のサクラ

ラを植樹した。開花は3〜4年後の見込み。同社副社長の千葉基さんは「再生可能エネルギーによる環境保護とサクラの景観が地域活性化につながれば」と期待を寄せていた。



# 1年生71人「働く尊さ」学ぶ

## R 古川東 C 大崎中央高でキャリアアセセミナー

古川東ロータリークラブ（木村正輝会長、会員数33人）は12日、キャリアセミナーを大崎中央高で開き、同校1年生71人に働くことの意義を伝えた。

高校1年のうちに職業への高い意識を持ってもらおうと毎年開いていて、今年で6回目。講師を務めたのは9人の会員。9つのグループ

古川東ロータリークラブ会員から話を聞く生徒たち

に分かれた生徒たちに対し、会員がそれぞれ講話。人のために働くことの尊さや、客に信頼されることの重要性などを教えた。

このうち、不動産業の古川土地（早坂竜太社長）の門間隆之営業課長代理は「社会に出たら受け身で教わるだけではだめ。疑問に思ったことは積極的に質問し、進んで学び取ってほしい」と話し、普段から先生や先輩を相手に質問する練習を

と呼びかけた。

また、人材派遣や施設管理などを行うアルプスビジネスクリエー

ション（福田武雄社長）の河村健志取締役本部員は、「日本だけが世の中の全てではない。普

段から世界に目を向けてほしい」と、自身の海外勤務経験を交えながら講話した。

受講した高橋拓未君は「知らない業界の人がする話は新鮮で面白い。学んだことを今後の学校生活で生かしたい」と語った。同校では前年度および前々年度卒業生の就職率100%を達成したといい、佐々木哲校長は「セミナーの効果も大きい」と感謝していた。



# 歴代2位タイ 白鵬関のV31祝う



白鵬関の優勝31回を祝う懸垂幕(左)と、世界農業遺産認定を後押しする懸垂幕

## 古川土地

### 本社ビルに懸垂幕

### 世界農業遺産認定も後押し

大崎市の観光大使「おおさき宝大使」を務める大相撲の横綱白鵬関(29)が、秋場所(宮城野部屋)の優勝を果たし、優勝回数で元横綱千代の富士(現・九重親方)と並ぶ歴代2位タイとなった。同市古川の建設・不動産業、古川土地(早坂章太社長)は、JR古川駅前の本社ビルに白鵬関の優勝を祝う懸垂幕を掲げ、白鵬関の偉業をたたえた。縦10メートル、横0.7メートルある懸垂幕は、「祝横綱『白鵬関』と黒色、『大崎宝大使』と青色で印字した下に「31回

優勝」と記した。

早坂社長は、秋場所千秋楽に東京・両国国技館へ足を運び、白鵬関に声援を送ったという。秋場所は、初土俵からわずか5場所目の新入幕・逸ノ城関が、1横綱2大関を破る活躍をみせ、千秋楽も勝ち白鵬関を1差で追走。大観衆には1991年5月場所以来、100年ぶりの新入幕初優勝を期待する向きもあり、普段の優勝がなかった場所とは違う異様な雰囲気の中、白鵬関は後輩横綱の鶴竜関に貫禄勝ちして3場所連続の優勝を決め、横綱の威厳を守った。

白鵬関は、元横綱大鵬(故人)が持つ最多優勝記録32回まで、あと1回に迫った。早坂社長は「逸ノ城関が活躍し、これまでの場所以上に苦しい分、さらに価値のある優勝だったと思う」と大崎市ゆかりの大横綱をたたえ、最多優勝記録更新を期待していた。

同社ビルには、「大崎地域の農業を『世界農

業遺産に!!」と記載した懸垂幕も掲げた。大崎地方1市4町が目指す世界農業遺産認定に向けた取り組みをPRしようというもの。早坂社長は「農業分野ではない民間企業も認定に向け後押ししたいと考えている。周りの人たちにも、さらに盛り上げてもらいたい」と話している。



# 市民病院新本院に寄付

## 大野さんら1社4人に感謝状

大崎市

「足が不自由な方などが院内を快適に移動できる。福祉部を通じ、地元根付いたさまざまに支援と併せ感謝している」と語った。阿部健雄・市民病院事業管理者も「医療充実だけではなく、患者が安らぎと憩いのひとときを過ごせるよう活用したい」と話していた。欠席した小野さんには、後日贈呈するとのこと。

大崎市は9日、同市古川穂波地区に新築移転した大崎市民病院本院への金品寄付者1社4人に対し、感謝状を贈呈した。伊藤康志市長は「心温まるご厚意に感謝したい。今後も大崎市を応援、支えてほしい」と語った。

大野さんは、「ほう、よくなっているよ」といった入通院患者たちを元気づける言葉を盛り込んだアクリル画4点を、千葉さんは太平洋の荒波を描いた「峻峭の譜」を寄贈した。

大崎タイムス社は、「新しい本院で、新しい車椅子を利用してもらいたい」として、福祉部に寄せられた善意金のうち50万円を車椅子購入代として寄付。病院は7台購入し、来院者が利用できるよう正面玄関前に置いている。小野さんからも同様に車椅子10台が提供された。

大崎タイムス社は、ケースを贈った。9階展望ラウンジに設置されている。

一人に感謝の気持ちを述べ、本社に対しては

感謝状を贈られたのは、木版画家の大野隆司さん(東京都葛飾区、おおさき宝大使)、油彩画家の千葉常太郎さん(古川)、古川土地社長の早坂竜太さん(同)、大崎タイムス社(同、伊藤卓二社長)、小野新一さん(大和町)。

早坂さんは、大相撲の横綱白鵬関(おおさき宝大使)の同市ファンクラブ事務局長を務める立場から、白鵬関から病院に提供された内閣総理大臣杯レプリカなど各種トロフィーを入れるガラスショー

感謝状贈呈式には4人が出席し、伊藤市長から感謝状を受け取った。伊藤市長は、一人

感謝状贈呈式には4人が出席し、伊藤市長から感謝状を受け取った。伊藤市長は、一人

感謝状贈呈式には4人が出席し、伊藤市長から感謝状を受け取った。伊藤市長は、一人

感謝状贈呈式には4人が出席し、伊藤市長から感謝状を受け取った。伊藤市長は、一人



感謝状を手に、伊藤市長(中央)らと記念撮影する4人



# 古川十日町地区が着工 大崎市最後の災害公営住宅

大崎市古川十日町地区に  
買い取り型災害公営住宅の  
建設を計画している古川土  
地・SUN総合・伸晃電設

工業・北陵建設・大和ハウ  
ス工業JV(代表企業・古  
川土地)は5日、現地で安

全祈願祭を行った。設計は  
SUN総合、本体施工は古  
川土地・大和ハウス工業

**古川土地・SUN総合・伸晃電設工  
業・北陵建設・大和ハウス工業JV**

電気設備工事は伸晃電設工  
業、機械設備工事は北陵建  
設がそれぞれ担当。

式典には、伊藤康志大崎  
市長をはじめ工事関係者な  
ど約40人が参加した。神事  
は、SUN総合の熊谷泉市  
常務が鎌入れ、伊藤市長と

大崎市議会の佐藤清隆議長  
が鎌入れ、古川土地の早坂  
竜太社長が鋤入れを行い、  
工事の無事完成を祈願した。

式典後、伊藤市長は「市  
で計画している170戸分  
の災害公営住宅事業では、  
最後となる十日町住宅の建  
設が無事に着工した。建設  
地となる旧ホテル古川ゴー  
ルデンパレスは、中心市街  
地活性化のためにも跡地活

用が問題とされていたが、  
市ではなかなか着手できず  
にいた。今回この地が災害  
公営住宅に生まれ変わると  
いうことで、計画から着手  
してくれた企業体の方々に  
感謝するとともに、来年3

月の完成を目標に無事故・  
無災害で工事を進めていた  
だきたい」と期待を込めた。  
計画では、廃業後10年以  
上未使用だった旧ホテル古  
川ゴー ルデンパレスを解体  
し、その跡地となる大崎市  
古川十日町33の1ほか  
地内の敷地1435・  
76平方メートル、S造7階  
建て、延べ1724・  
47平方メートルの共同住宅1  
棟20戸分を建設する。  
部屋のタイプは1L  
DK3戸、2DK11  
戸、3LDK6戸で、  
周辺住民も利用できる  
コミュニティスペース  
1室を設けるほか、駐  
車場25台分も確保する。  
今月中にも本格着工  
し、2015年3月の  
完成を目指す。



鎌入れをする熊谷常務



鎌入れをする伊藤市長(右)と佐藤議長



鋤入れをする早坂社長



完成予想パース

完成を目指す。



ホテル跡地で  
災害住宅着工

大 崎

大崎市中心部の旧ホテル古川ホールディングスの解体工事が終わり、災

害公営住宅を建設する安  
全祈願祭が5日、同市古  
川十日町であった。

伊藤康志大崎市長、市  
議会や地区の関係者ら  
50人が出席し、玉串をさ  
さげて工事の安全を祈

った。  
古川ホールディングスは2  
002年に廃業。土地と  
建物の所有権が転々とす  
る中、建物に不審音が出  
入りしたり、地下駐車場  
に雨水がたまって悪臭を  
放つたりと防犯、衛生面  
で問題となっていた。

昨年、同市の不動産会  
社「古川土地」を代表と  
する企業グループが跡地  
を取得。災害公営住宅「古  
川十日町住宅（仮称）」  
の建設に乗り出した。

十日町住宅は鉄骨7階  
で、延べ床面積1万2千4  
平方メートル。1DKと3LD  
Kの20室とコミュニティ  
スペースを備える。来  
年3月完成予定で、市が  
10億4000万円で買い  
取る。4月の入居開始を  
目指している。

古川土地の早坂章太社  
長は「10年以上も地域を  
悩ませてきた懸案が解決  
できた。震災からの復興  
と、街の活性化に向けた  
一歩となればうれしく」と  
語った。

市は十日町住宅をほし  
めとする災害公営住宅の  
入居希望者を募ってい



大崎市中心部のホテル跡地  
であった災害公営住宅建設  
の安全祈願祭

る。連絡先は大崎市建築  
住宅課0229(2)3  
8054。



大崎市

# 〔仮称〕古川十日町住宅が着工

## 買い取り式災害公営住宅

大崎市が買い取り方式で整備する災害公営住宅（仮称）古川十日町住宅（20戸）の工事安全祈願祭が5日、同市古川十日町の現地で行われ、市や工事関係者、地元住民など50人ほどが集まって神事を行い、無事故を祈った。本年度内の完成を予定し、来年4月の入居を目指す。

### 本年度中の完成目指す

建設されるのは旧「ソパレス」跡地。事業地・SUN・仲晃・北陵・大和企業グループ（事業グループ代表・古川土地）。

約10億円で契約。企業グループがホテルの解体と住宅の建設を行い、市が建物、土地を買い取る。

市は入居者の募集を行っており、これまで10戸分の申し込みがあるという。

地上7階、地下1階のホテルは1980年に開業し、結婚式場やレストランもあり、古川を象徴する施設としてにぎわったが、2002年に廃業してから利用されることなく廃虚となり、防災、防犯面からも再開発を望む声が強かった。

神事では、伊藤康志市長や早坂竜太・古川土地社長らがくわ入れや玉串をささげ、工事の無事を祈った。

伊藤市長は神事後のあいさつで、「被災者への住宅供給と、課題だった再開発が進められ二重に感慨を覚える。中心街の活性化も期待する」と述べた。

市は古川地域で買い取り方式の災害公営住宅整備を4カ所（合計120戸）で行い、十日町が最後の着工。

市は企業グループと

建物に鉄骨造7階建てで、総床面積は1724平方メートル。1階には地域の集会などに活用できるコミュニティスペースを設ける。

市は企業グループと

市は企業グループと



玉串をささげ工事の安全を祈る伊藤市長



# 白鵬関

(おおさき宝大使)

# のV30祝う

## 古川土地 本社ビルに懸垂幕

大崎市の観光大使「おおさき宝大使」を務める大相撲の横綱白鵬関(宮城野部屋)が、名古屋場所所で史上3人目となる優勝30回を達成した。これを受け、同市古川の建設・不動産業、古川土地(早坂竜太社長)は、大台到

達を祝う懸垂幕をJR古川駅前の本社ビルに掲げた。懸垂幕は、長さ10メートル、幅0.7メートルあり、横綱の名前の下に目立つ赤色で「30回優勝」と記した。隣には、世界ボクシング協会(WBA)女子スーパーフライ級

王者で、白鵬関とは宝大使仲間でもある藤岡奈穂子選手(同市古川出身)の防衛成功を祝う懸垂幕も設置されている。「東日本大震災で心が病んだ市民を激励し続けてくれた、大崎市

の気持ちを込めて懸垂幕を掲げた」と早坂社長。「さらに勝ち続け、大崎市民に力を与えてほしい」と話し、千代の富士(現九重親方、31回)、大鵬(故人、32回)の優勝記録更新を期待していた。白鵬関は、震災発生

白鵬関の優勝30回を祝う懸垂幕



後まもなく大崎市鳴子温泉を訪ね、2次避難していた被災者を激励。大就任後は同市へ頻繁に足を運び、新年祝賀会には毎年出席。7月に開院した市民病院新本院へ全勝優勝額、内閣総理大臣杯レプリカなど各種トロフィーを寄贈し、早坂社長がトロフィー類を町へ入る。白鵬関らは、11日に夏巡業「大相撲中新出場所」で同市隣の加美







古川土地など  
5社JV

# 8月にも着工へ

## 大崎市 古川十日町の災害公営住宅

大崎市が買い取り型災害公営住宅の事業者に選定した古川土地・SUN総合・伸晃電設工業・北陵建設・大和ハウス工業JV(代表企業・古川土地)は、大崎市古川十日町地区に建設する災害公営住宅について、8月にも着工する。

同地区の災害公営住宅については、昨年7月、大崎市が設計・施工を担当する整備事業者を公募し、同JVを選定。完成後には市が土地と建物を買収する。

計画によると、廃業後10年以上未使用になっていた旧ホテル古川ゴールデンパレスを解体し、跡地となる大崎市古川十日町33の1ほか地内の敷地1450・80平方メートルに、S造7階建て、延べ1519・55平方メートルの共同住宅1棟20戸分を建設する。

部屋のタイプは1LDK3戸、2DK11戸、3LDK6戸で、周辺住民も利用できるコミュニティスペース1室を設けるほか、駐車

場25台分も確保する。

7月末までに解体工事を終了させ、8月にも着工。来年3月末の完成を目指す。



# E かお

## 文化的な暮らしを応援

JR古川駅前の自社ビルに「大歓迎!! セントラル自動車様 関連企業様」の大垂れ幕を掲げたのは、2007年のことだった。

「神奈川県から大衡村に本社工場を移したセントラル自動車の関係者は、不安でいっぱいだったでしょう。駅に降り立って垂れ幕を目にし、心を和ませてくれたら」と、当時の思いを振り返る。

垂れ幕は大崎市民へのメ

古川土地社長

早坂 竜太さん



はやさか・りゅうた  
大崎市出身。古川工高卒。85年に古川土地に入社。96年に取締役、02年に社長就任。座右の銘は「一灯照隅 万灯照国」。妻、母と3人暮らしで、小旅行が趣味。

メッセージでもあった。「新不動産だからといって、きないと言おう。誰もが健康しく来た人たちと共に地域を盛り上げましょう」と呼び掛けたのだ。の仲介だけでは、市民の本意を汲み取れない。私だけ頑張っても実現不能なの

で、皆さんに呼び掛けるのです」

昨年、廃業後10年余も放置されていた市中心部のホテルを取得した。地権者と粘り強く交渉し、ホテル解体後は災害公営住宅の建設用地にする道筋を付けた。メガソーラー事業にも進出した。環境教育の場としての役割も担う計画だ。大崎市在住者や出身者に出資を募り、収益還元には地元特産品を活用する。

「自分の会社だけでもつかうため。地域全体を元気にしたい」と意気込む。





## 「病気と闘う勇気持ってほしい」

白鵬関は2011年6月、宮城野親方部屋力士たちと一緒に同市鳴子温泉を訪れ、東日本大震災で被災した市民や沿岸部からの2次避難者を激励。それがきっかけで宝大使へ就任し、市新年祝賀会に毎年参加するなど、年に数回は同市を訪れている。昨年5月の新本院建設事業安全祈願祭にも出席し、「病気と闘う大崎市民を勇気づけたい」と優勝額寄贈を申し出た。

# 白鵬関から「全勝」優勝額

## 大崎市民病院 新本院完成記念し寄贈

7月1日開院する大崎市民病院新本院に、市の観光大使「おむさき宝大使」を務める大相撲の横綱白鵬関(29)から優勝額が寄贈され、1日に新本院1階の共用モリススペース「ほなみモール」で寄贈式(実行委員会主催)が行われた。白鵬関も出席し、「優勝額を見た患者の皆さんに、病気と闘う勇気を持ってもらえれば」と語った。

寄贈されたのは、白鵬関が2008年7月場所(名古屋場所)で7度目の優勝を果たしたときの額。通算2度目、横綱昇進後は初の全勝優勝時のもので、

額上部には「優勝」の代わりに「全勝」と書かれている。大沼野実行委員長からの経過報告後、宮城野親方や伊藤康志市長らと優勝額を除幕した白鵬関は「全勝優勝10回のうちの1つなので、通常の優勝額よりエネルギーがあると思う。患者さんが優勝額を見て、病気を早く治してほしい」とあいさつ。伊藤市長は感謝状、阿部健雄・市病院事業管理者も記念品を白鵬関に贈り、「横綱の思いに込められるよう、元気で笑顔あふれる復興まちづくりを進めたい」「患者が「病気に負けられない」という気持ちになるはず。大切に保存、掲示したい」と感謝していた。

白鵬関からは額のほかに、11年9月場所優勝時の内閣総理大臣杯レプリカ、12年3月場所優勝時のチエコ共和国友好杯など6品も寄贈され、9階展望室に展示された。優勝額は、幕内優勝した力士に、両国国技館開催場所初日に毎日新聞社から贈呈される。大きさは縦3・17m、横2・28mで、左側に優勝時の番付と四股名(しこな)、右側に優勝場所が記載される。今回寄贈されたものを含め、昨年11月場所(九州場所)まで白黒写真に油絵の具で着色したものであったが、彩色家が引退したことを受け、今年1月場所(初場所)からデジタル処理したカラー写真に変更された。国技館には3枚飾られ、約6年後に取り外し本人へ返される。複数枚を持つ力士は、地元や縁のある地域の公共施設、後援会関係者などに寄贈することが多い。



# 大型絵本12冊を寄付

## 古川東RCが大崎市図書館に

古川東ロータリークラブ(奥山浩二会長)は11日、大崎市図書館に、子どもたちに人気

の大型絵本を12冊贈った。大崎市古川の芙蓉閣で開かれた例会の中で、奥山会長が田口新

一館長に手渡した。

同ロータリークラブは、1982年から毎年、旧古川市図書館のころから圖書の寄贈を

行っている。

今回は、大型サイズの絵本。迫力があり、広い場所での読み聞かせにも向いていることから、貸し出し希望が多いという。

受け取った田口館長は「図書館では蔵書数が少なく、基本的に個

人に貸していない。寄付は大変ありがたい」と感謝。奥山会長は「5

年継続して図書館に大型絵本の寄付を続ける。人気の高い絵本に触れる機会が増えればうれしい」と語っていた。



田口館長(右)に大型絵本を手渡す奥山会長

# 防犯ブザー770個寄贈

古川東RCが大崎市教委へ

## 古川地域の新人児童用

古川東ロータリークラブ（奥山浩二会長、会員数35人）は6日、大崎市古川地域の2014年度新人児童用として、防犯ブザー770個を市教育委員会に寄贈した。

発的な善意を募るため置く「ニコニコボックス」の浄財を活用した事業として、新世代奉仕委員会（高橋清勝委員長）が中心となり2011年度から毎年、市教委に贈っている。今回の寄贈数は、初年

度に並んで最も多く、通算3000個を超えた。13年度は寄贈したのが入学式後になり、すでに購入してしまった家庭もあったため、今回は3月中に贈ることにした。この日は奥山

会長、高橋委員長ら4人が代表して市教委を訪ね、矢内諭教育長に防犯ブザーを手渡した。

「使わないことが一番良いが、子どもたちの安全のため活用してほしい」と奥山会長。矢内教育長は「本当にありがたい。被害防止のため、万一のときは使わせていただくと話していた。」



矢内教育長（左）に防犯ブザーを手渡す奥山会長



# 被害防止切に願って

新入学児童に  
防犯ブザーを

古川東RC  
大崎市に寄贈

新入学児童の登下校時に携行してもらおうと、大崎市の古川東ロータリークラブは6日、防犯ブザーを市教委に寄贈した。

奥山浩二会長らが市岩出山庁舎に矢内諭教育長を訪ね、4月に古川地域の小学校に入学する新1年生用の防犯ブザー770個を贈った。寄贈はこととして4年

目。奥山会長は「子ども  
の安全を守るために役立  
ててほしい」と述べ、使  
い方を実演した。

矢内教育長は「見守り  
を呼び掛けているが、不  
審者がいないことを切に  
願い、児童が被害に遭わ  
ないよう祈る。皆さんの  
気持ちを学校を通じて保  
護者に伝えたい」と感謝  
した。



矢内教育長（左）に防犯ブザーを手渡す奥山会長



# 6カ所に災害公営住宅

東日本大震災で自宅が被災した低所得者などを入居対象にした災害公営住宅の整備が、大崎地方で進んでいる。大崎市は6カ所に計170戸を整備する計画で、最も早い田尻地域は8月から入居が始まる。古川地域は4カ所建設予定で、工事が遅れているところがある一方、入居開始が予定より早まる見通しの住宅もある。

## 大崎市で整備進む

古川地域120戸は公募型プロポーザルで決定した優先交渉権業者が建設し、市が買い取る形をとる。鹿島台鈴掛45戸と田尻沼部5戸は、市が直接建設する。1月に開いた入居募集案内説明会では、午前と午後合わせて100人以上の被災者が来場した。

工事進捗率(2月末現在)は、古川七日町(30戸)が約20%とおおむね予定通りで、12月に入居開始予定。古川駅東(35戸)は9

月入居開始を目指していたが、工事進捗率が約25%にとどまっており、市への引き渡しは9月末に変更。入居は早くても10月にずれ込む。古川駅前大通(35戸)は約26%。こちらは予定より早く工事が進んでおり、「入居開始は11月から10月に早まるかもしれない」(市建築住宅課)という。古川十日町(20戸)は、建設予定地にある旧ホテル古川ゴールデンパレス(地上7階、

地下1階)の解体工事に今月から着手。地下駐車場を発泡セルタルで埋める作業があるなど難工事が予想されているが、来年3月完成、同4月入居開始を目指している。

田尻沼部(5戸)の工事進捗率は約19%。6住宅で最も早い7月完成し、8月入居開始の見通し。鹿島台鈴掛(45戸)は、遅れていた設計作業が終わり、4月に入札が行われる予定。来年2月入居開始としていたが、作業遅れを受け同3月完成予定と変更した。

入居申込資格は、①仮設住宅(みなし仮設)住宅含む、以下仮設に入った市民②市内仮設に入り、住所も大崎市へ移した人③市内仮設に入ったが、住所は市外のままの人④所得の面で①〜③に該当し



古川十日町住宅が建設される旧ホテル古川ゴールデンパレス跡地

なかった人⑤居住地を問わず、自宅を滅失した人の順。

①は2月に申し込みを受け付けたが、1DKでも10戸のうち1戸

しか申し込みがなく、地域格差が出ている。②は3月11日まで、③は4月1〜10日に受け付ける。



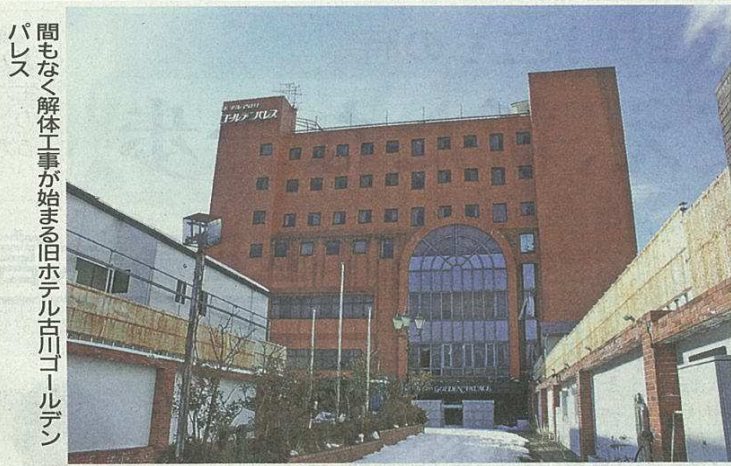
大崎・古川

# 老朽ホテル今月から解体

## 02年廃業のゴールデンパレス

### 来年3月 跡地に災害公営住宅

再開発の行方が懸念さ  
れていた大崎市の旧ホテ  
ル古川ゴールデンパレス  
の建物が、今月から解体  
されることになった。跡  
地には東日本大震災の被  
災者向けの災害公営住宅



間もなく解体工事が始まる旧ホテル古川ゴールデンパレス

再開発の行方が懸念さ  
れていた大崎市の旧ホテ  
ル古川ゴールデンパレス  
の建物が、今月から解体  
されることになった。跡  
地には東日本大震災の被  
災者向けの災害公営住宅  
が建設される。2002  
年のホテル廃業から11  
年余、老朽化の加速で高  
まっていた防犯や防災面  
での市民の不安が、よう  
やく解消されそうだ。

災害公営住宅は、建設  
・不動産業の古川土地  
(同市)を代表とするグ  
ループが土地などを取得  
して建設。市が完成後に  
買い取る。  
計画では建設するのは  
鉄骨7階の集合型1棟。  
延べ床面積は約1450  
平方メートルで20戸が入る。グ  
ループの担当者によると  
内訳は1DK3戸、2D  
K11戸、3LDK6戸。  
周辺住民も利用できるコ  
ミュニティスペース1  
室を設ける。  
外観は周囲の商店街の  
景観に配慮し、災害時の  
避難を容易にするため2  
カ所に階段を設置する。  
駐車場は25台分。7月末  
までを予定する解体終了  
後に着工し、来年3月末  
の完成を目指す。  
旧ホテルは地上7階、  
地下2階。廃業から5年  
後の07年、石巻市の業者

が競売で落札したが、登  
記手続きが進まないこと  
などから放置された状態  
となっていた。古川土地  
が災害公営住宅の候補地  
として地権者との用地取  
得交渉などを進め解体で  
きるようになった。  
市などは2月下旬、旧  
ホテル周辺の住民らに対  
象にした説明会を市役所  
で開催。古川土地の早坂  
竜太社長は「旧ホテル  
を」負の遺産にする訳に  
はいかないと考えた。地  
域の発展のため努めた  
い」と強調した。  
集まった約20人の住民  
らには安堵（あんど）の  
表情が浮かぶとともに  
「ホテル建設時には自宅  
への影響が出て建て直さ  
ざるを得なかった」など  
と、工事への注意を求め  
る声も上がった。

市は計170戸の災害  
公営住宅を整備する。地  
域別は古川が120戸  
(計4地区)、鹿島台が45  
戸、田尻が5戸。入居開  
始予定は、最も遅い古川  
十日町住宅が15年4月。



# 旧ホテル古川ゴールデンパレス

## 解体工事前に業者が神事

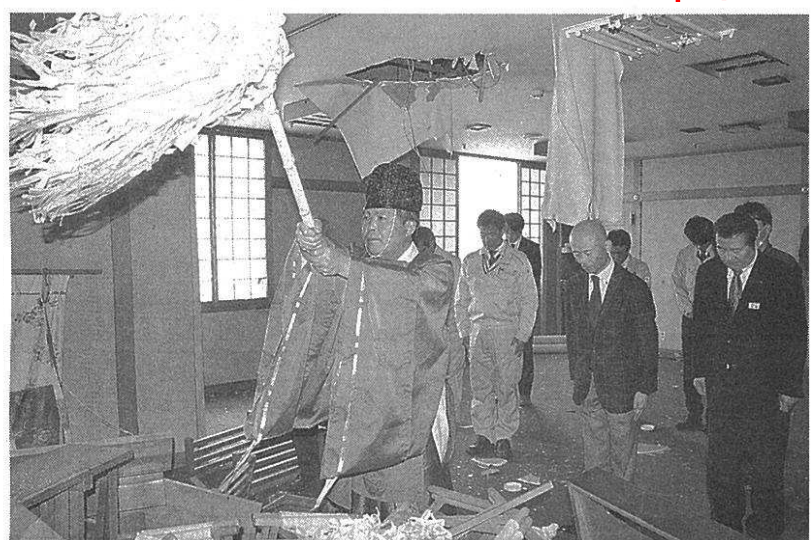
大崎市の災害公営住宅（仮称）古川十日町住宅」建設予定地の旧ホテル古川ゴールデンパレス敷地内で25日、同ホテルの解体工事清め祓（はら）い式が行われ、工事関係者が作業の無事終了を祈った。事業を手掛ける「古

川土地・SUN・伸晃・北陵・大和企業グループ」各社の代表者、現場担当者など約20人が出席。代表企業、古川土地の早坂竜太社長らが祭壇に玉串をささげ、手を合わせた。出席者は、式終了後に建物内へ入り、結婚

式で使われていた4階祭壇前でもおはらいをした。早坂社長は「地域課題の解決、再生に向けて動き出した実感があ

る。近隣の方に迷惑をかけないよう、細心の注意を払い工事を進めたい」と話していた。地上7階、地下1階建ての同ホテルは1980年開業。俳優・川崎敬三さんが支配人を務めたこともあり、結婚式場、レストラン、ビアガーデンなどもありにぎわったが、2002年廃業。その後は地震や暴風による窓カ

ラス破損、非行少年やホームレスなどによる侵入などで廃墟と化し、中心市街地再生のためにも早急な対応が求められていた。解体工事は3月3日から入る。8月1日から災害公営住宅の建設工事に着手するが、その前に近隣住民などを招いた安全祈願祭をあらためて行うことになっている。同住宅の完成は来年3月末の予定。……旧ホテル内の祭壇前でおはらいをする関係者





# 用地等購入に約7億円

## 古川十日町の 災害公営住宅 新年度予算案に計上

大崎市

大崎市は、東日本大震災で自宅が被災した低所得者などを入居対象にした災害公営住宅170戸の整備を進めている。市議会2月定例会に上程された2014年度一般会計予算案では、同住宅整備事業費6億9724万円、うち「仮称」十日町住宅（古川十日町）20戸建設予定地の用地・建物購入費として6億9693万円が計上された。

### 中心商店街活性化にも期待

災害公営住宅は、古川地域4カ所計120戸は公募型プロポーザルで決めた優先交渉権事業者が建設して市が買い取る形、鹿島台45戸と田尻5戸は市が直接建設する形で整備している。

十日町住宅は、優先交渉権事業者となった「古川土地・SUN・



へ  
興  
張  
ろ  
う  
！  
復  
活  
頑  
み  
や  
ぎ

十日町住宅は、既存の地下駐車場にたまっている雨水等の排水作業を実施中。解体工事は5月未完了予定で、来年4月完成を目指す。7階建て、延べ床面積約1400平方メートルの予定で、間取りは2DK11戸、1DK、3DK、3LDKが各3戸。25台分の駐車場も整備予

仲晃・北陵・大和企業

グループ（代表企業・古川土地）が、「ホテル古川ゴールデンパレス」（古川十日町、2002年廃業）として使われていた地上7階、地下1階の建物を解体し建設する。

現在は、既存の地下駐車場にたまっている雨水等の排水作業を実施中。解体工事は5月未完了予定で、来年4月完成を目指す。7階建て、延べ床面積約1400平方メートルの予定で、間取りは2DK11戸、1DK、3DK、3LDKが各3戸。25台分の駐車場も整備予

同ホテルは、廃業後

に使われることなく廃虚と化し、中心市街地再生の妨げとなっていた。ガラスの破損、侵入者による警察への通報など

報などもしばしばあり、防犯、防災の意味でも解体や用地の有効利用を望む声が強かった。建設により、被災者の住居問題だけでなく、まちなか居住による中心商店街活性化が図られることなども期待されている。

市議会は、一般会計予算案など31議案を、議長を除く全33議員で構成する予算特別委員



「仮称」十日町住宅」建設予定の旧ホテル古川ゴールデンパレス（木内知子委員長）に付託し、18～25日（25日は予備日）に審議する。周辺住民対象の説明会は、21日午後6時半から市役所北会議室で開かれる。

# 地域一丸へ140人が出席

## 大崎市三本木 まるごと祝賀会

さんぼんぎまるごと  
新年祝賀会が12日、大  
崎市三本木公民館・館  
山ホールで開かれ、三  
本木地域の各種団体や  
企業関係者など約14  
0人が参加して新年を  
祝った。

三本木地域の一体感  
醸成の場として三本木  
まちづくり協議会(佐  
藤仁一郎会長)が毎年  
開いており、今回は首  
都圏で暮らす三本木出  
身者など約140人が参  
加して三本木のメン  
バーも初参加した。  
佐藤会長は「地域が  
一丸となる機会として

毎年開催している。こ  
れからも明るく楽しい  
地域づくりにまい進し  
たい」とあいさつ。伊  
藤康志市長は、昨年、  
三本木町時代から続く  
住民総参加の河川清掃  
活動「ラブリバー大作  
戦」により同市が公益

社団法人日本河川協会  
(東京)から河川功労  
者表彰を受けたことな  
どを紹介。「元氣と誇  
りある市の発展、復興  
にこれからもご協力を  
」と呼びかけた。  
市民団体「館山公園  
を復活させる会」(尾

出利男会長)がサクラ  
の植樹活動など昨年の  
活動を紹介したり、三  
本木地域が導入を検討  
している地域内公共交  
通に関する報告もあっ  
た。また、三本木地域  
のよさこいグループ、  
愛燦舞の踊りが会場を  
沸かせた。この日はY  
KKAP執行役員で東  
北事業所(同市三本木)  
の川崎将弘所長の講演  
も行われた。



会場を盛り上げたよさこい団体の演舞